



我々NPO中間支援組織の役割は、アドボカシーとネットワークづくり

1995年の震災での復興支援から中間支援組織へと変革をとげたNPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸（以下CS神戸）。

復興支援が震災で無くなったものをうめる支援ならば、CS神戸は元々あった住民の力をエンパワメントするための支援としての仕組みづくり。

そのリーダーとしてボランティア・地域を牽引してこられたCS神戸理事長中村順子さんに、お話を伺いました。

4種類のバランスをうまく取っていくことは、非常に大変なことですが、大事なことだと思っています。

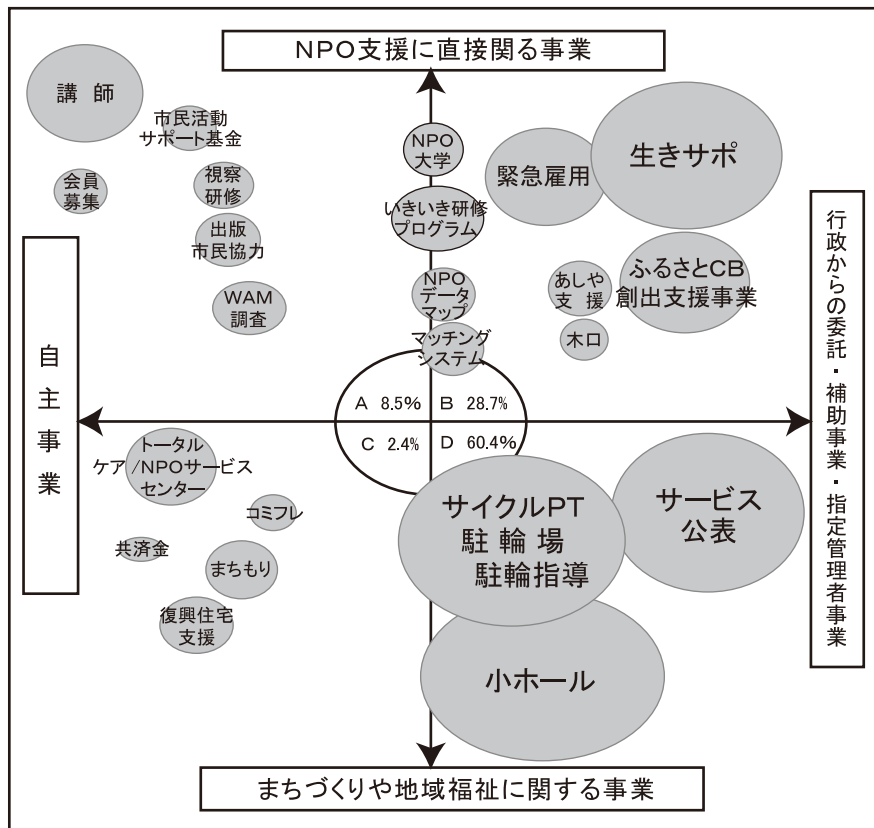
アドボカシーとネットワークづくり

——中間支援組織の役割は何だとお考えですか？

やはりアドボカシーでしょう。私たちは活動をしながら提言していきます。ただその活動で、前述の受託事業が多くなりすぎると、自主事業の中にあるニーズを受け止め行動するパワーが

低下してしまいます。一方、収益がないと運営が難しくなるので、受託に頼りがちですが、それでは自主事業にける力が弱ってしまいます。そうならないためには、ネットワークの力は大切です。事業ベースでネットワーク化することで、新しい活動が生みだされたり、ひとつのグループだけではできないことや不得手なことも可能になります。そうやって、たくさんのグループが集まって行動し、社会へ提言することで、行政にもNPOの存在感を示すことができると思います。

図 1



シリーズ
listen to....

聞く

Vol.15

NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

理事長

なかむら じゅんこ
中村 順子さん

復興支援から中間支援組織へ

——CS神戸を誕生させたきっかけは？

きっかけはやはり震災です。私は80年代から10数年の間、高齢者や障害者のための生活支援団体のスタッフとして活動してきました。そのこともあって、阪神淡路大震災当日の午後から安否確認と共に、生きるために必要な「水を配る」活動を始めました。この活動は同年2月に4人で立ち上げた「東灘地域助け合いネットワーク」に繋がりました。その後もさまざまな復興支援活動を行ってきました。

1年半ほど経ったある時、被災地への物資やボランティアの需要と供給とのバランスが崩れてきたことに気付いたのです。

これではいけない。今度は、自分たちの力で、自分たちの地域のために何ができるのかを考えなければならぬ時期にきているのではないかと。そう思ったことが、復興支援から中間支援へとシフトチェンジする契機となりました。「東灘助け合いネットワーク」が震災で無くなったものを埋める支援であるならば、「CS神戸」は元々あった住民の力を元に戻すための支援なのです。

エンパワメントという手法

——中間支援組織として目指したものは？

先程述べたように、ボランティアによる支援の供給バランスの不均衡で、本来地域住民として持っていたはずの元の力に戻れないのは困ります。自分たちのポテンシャルを高め、地域社

これからのNPOのあり方

——現在、日本でのNPO法人認証数は約3万8000。形態も活動も様々ですが、これからのNPOはどうなっていくと思われますか？

社会システムの3つのセクターとして、企業・行政・市民活動がありますが、我々NPOは企業と行政の両方と協働しながら活動しています。事業を通して、企業とも行政とも接点があるので、分かり合えるのです。

ただ、企業に対しては利益追求だけではダメだ。環境やモラルを守り、社員や住民の人権を大切にしたい企業と提言していく。行政に対しては、事業委託のあり方についてや、NPOの基盤整備を充実させて欲しいと提言していく。

NPOとしての自分たちの活動を通して、企業にも行政にも対等なものをつくらなければならない。NPOの役割であり、社会的な存在意義です。

NPOの使命

——今後NPOがなすべきことは？

今の時代、一企業に定年まで雇用保障してもらえとは限りません。会社で忠誠を尽くすより、自分の生き甲斐に忠実な働き方を求める人達が少しずつ増えていきます。少子高齢化という、新しい人口構成に相応しい雇用の形態として、若者はNPOで自分らしく生き甲斐を求めて働き、高齢者はボランティア活動で社会と繋がる。

そのためには、今よりもっとたくさんNPOが必要です。行政や外郭団体の中に隠れている仕事を引き受ける

プロフィール

中村順子 (なかむら じゅんこ)

商社勤務を経て、神戸ライフ・ケア協会などでボランティア活動に従事。東灘地域助け合いネットワークにおいて復興活動に取り組んだ後、1996年にCS神戸を立ち上げ、現在に至る。専門領域は、NPOを含む市民活動全般、ボランティア論、コミュニティ・ビジネスについて。

会のために何ができるのかを考え、提言し行動するという市民のエンパワメントを強めなければなりません。

そのためには、専門家が必。一緒に悩み、考え、引き出しをたくさん持つていて適切に資源提供やコーディネートができる専門性を高め、活動をやっているという市民を的確に支援できる仕組み作りが必要だと。行政の縦割りではなく、生活全般を民間で支援をしていくこと、これを目指しました。

受託事業と自主事業のバランス

——そうして設立されたCS神戸の現状は？

これは(図1)私たちの事業構成を図に表したのですが、縦軸の上半分がNPO支援に直接関係する事業、下半分は地域サービスに関わる事業です。また、横軸は右半分が受託・補助事業、左半分が自主事業です。活動として占める割合の大きいのは右下の指定管理事業としてのホール管理運営などですが、対極の左上、自主事業によるNPO支援の活動をいかに充実させていくかが重要だと思っています。そして、この

NPOがもつと生まれ、市民ひとりひとりが幸せになるために立ち向かっていくこと。それがNPOの使命だと思います。

そうやって生まれていくNPOは、多様性があるからこそ面白い。形は違っても、思いを同じくするNPOが、ネットワークによって力をつけ、アドボカシーを実現していくためにも、ネットワーク作りを助ける我々中間支援組織が頑張らなければならないと思っています。

最後に

現在CS神戸は年間30団体のNPO支援、相談者は1000人以上。まだまだ規模としてはNPO先進国のイギリスに及びませんが、個人の思いをグループ化するのを担いつつ、発信できるNPOの機能をもっと強めていけるよう、支援していきたいと思っています。

NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸って？

地域の人による、地域のための市民活動や市民事業を支援し、より住み良い環境と市民社会の実現をめざすサポートセンター。共生循環型のまちづくりやNPO手法によるコミュニティ事業を行う団体の支援、また人材養成という新たな公共領域のしごとにもチャレンジしている。

お問い合わせ・連絡先

神戸市東灘区住吉本町2-13-1 森田ビル3F

TEL.078-841-0310

URL: <http://www.cskobe.com>

